

太宰府市短歌ポストア第百十三期入選歌

(令和四年二月二十一日)

選者 天久保富士子

と、ことはに飛梅薫る里に生れすずらに暮らす幸を思える

朝倉市 井上義昭

太宰府の風に香りし梅ヶ枝の甘さに刻みし友との思ひ出

東京都 長崎朋也

ヒキガエル宝満山を登る夏天敵かゆし目指す頂

福岡市 田中茂樹

初詣梅ヶ枝餅をふうふう夫婦二人で福が膨らむ

大野城市 前隈浩佑

秋ふかし空龍門の山を見上げれば天を切り裂く百舌鳥の声

筑紫野市 長瀬伸二

見渡せば空も木の葉も色づきしかり染まった太宰府の空

福岡市 山口由子

秋晴れの鳥居くぐり々一礼す学徒の背中に過去懐しむ

山口市 大原満瑠

欄干に持たれ見てゐる初春の空の青さの身にしみてさぬ

福岡市 竹下正彦

だんふでひいたおみこしきちとてておすめとおなじはつうめのひに

横浜市 高濱美佐子